

昨年12月、香港で開かれたWTO閣僚会議は、結論を先送りすることだけを決めて閉幕しました。食料と農業からWTOは出て行け!という、世界の「もう一つ」の潮流が大きく結集した成果でもあります。現地、香港で大内トモちゃんが聞いてきた「農業国」からの報告の一端を紹介します。



World's Most Shameful PUPPET!
(世界一恥ずかしい操り人形)

小泉でもブッシュでもなく、私が一番恥ずかしい。捨て身な企画だったわけだけど、カメラが殺到して大変。気が休まらなくてたびれた。沿道の人にうけたので、まあ、いっかあ。

おっちゃん・おばちゃんのグローバル

彼はこんなことを話してくれました。

人間は1人で生きているわけではない。自然の一部です。私たちはただ農薬を使わない農業をするのではなく自然や鳥や動物、虫たちが生きられる環境づくりをしています。そして人とのつながりを大切にします。必要以上の物はつくらないことです。身近な人が生きられるだけつくればいいんだ、と。

もちろん、生計を立てるため売る分もつくりませんが、人間が豊かに生きるっ



てこういうことだと言葉にしてくれた人でした。感動して、友達になりたいと思わせてくれたおっちゃんでした。

フィリピン農民運動全国評議員のタ・マリアーノさんが話してくれたルソン島中央部にある村の地主vs農民の報告です。

子どもの頃から農業をしていました。米が主食で、野菜やココナッツ、バナナなど、作物がとれる豊かな土地です。

しかし農民は貧しい。80%の土地はわずかな地主が管理していて、70%の作物は地主へ納めなくてはなりません。種や肥料などコストが高く、売れる値は安いのです。農民は最初に資本を借ります。しかし、利子がとても高く、50%の米を借りると、収穫後には70%にして返さなくてはなりません。



地主は広大な土地を持ち、それをハシェンダと呼びます。このハシェンダでは5309人が従事しています。6450haの土地があり、4915haが農地です。

農民は農地解放を掲げて闘ってきました。1983年、政府はSDOという

政策を打ち出し、農民は土地の共同所有者になりました。いわゆる株主です。しかし、機械化が進み、農地もゴルフや工場など農業用以外に開発されていきました。

お陰で週に3日しか働けなくなり、しかも給料は非常に安いのです。6人家族が1日に必要なお金は650ペソですが、給料は1日149ペソ。しかも、手取りは9.5ペソにしかありません。

2004年11月6日、「賃上げ・ボーナス・いろいろな手当て」の要求を掲げストライキを始めました。デモやストは法律で禁止されています。それをタテに経営者は軍を呼び、警察や消防車も来ました。催涙弾が投げ込まれ、有毒な物が混じった水を放水車で放水されました。農民を銃で撃ち、7人が虐殺されました。

人権委員会に申し立て、この非道について認められましたが、何もなされていません。賃上げ・スト間の賃金支払い・ボーナスの要求は受け入れられましたが、まだ初歩の段階です。組合をつかって要求を掲げて闘っています。進歩的な組織にも支援してもらっていません。日本からの支援もありました。